

現代の女子大学生の関心事について

On concerns of contemporary female university students

山口 豊

YAMAGUCHI Yutaka

武庫川女子大学 学校教育センター年報

第4号 2019年

現代の女子大学生の関心事について

On concerns of contemporary female university students

山口 豊*

YAMAGUCHI, Yutaka*

要旨

2017年度後期に全14回に渡って、毎回学生にニュースを一つ取り上げさせた。彼女たちが取り上げたニュースを9つのジャンルに分類し、それぞれのジャンルの特色について考察した。その結果、教育学科の学生は教育に関する話題に高い関心を示していることが分かった。また、入手経路については圧倒的にデジタル媒体が多く、新聞やテレビといった媒体にはあまり関心がないことも窺える結果となった。

キーワード：教育学科女子大学生 関心事 平成29年度ニュース

1. はじめに

2017年度後期に開講した本学教育学科科目の一つである「教科国語」では、毎回「今、私が気になっているニュース」についてプレゼンテーションメモを取るという宿題を課し、毎回数人に発表させた。これはいずれ直面する面接などで「しっかり、はっきり、ゆっくり」と話す練習を狙いとしたものであると同時に、教師として音声言語に携わり、「話すこと、聞くこと」の指導として、まずは指導者自身が体験することが大切だと考えたからである。だが、このことについての考察は別の機会に譲るとして、今回は彼女たちがその際にどのような話題を選択したのか、またどのようにしてその情報を入手したのかについて調査することで現代の女子大学生の興味関心について報告したい。

2. 調査目的

本学教育学科に所属する学生がどのような事柄に興味関心を持つのか、また、教育を巡る事件を含むさまざまな情報に対してどの程度関心を持っているのかを知るとともに、彼女たちがどのような方法でそれらの情報を入手しているのかを調査することにより、現代の学生の関心事の傾向と情報媒体の様子について知る事を目的とした。

3. 調査方法

「教科国語」授業終了時に毎回渡した宿題プリント(図1)を、次回の授業で提出させ、2クラスごとに関心事についてすべての項目をリストアップした。次にそのリストアップされた事項を内容により次の9種類に分類した。

分類 ①事件、②政治、③国際(海外での事件、事故を含む)、④教育(学校・園等で起こった事件、事故を含む)、⑤スポーツ、⑥科学(IT関係を含む)、⑦芸能、⑧自然(自然災害を含む)、⑨生活(旅行、病気を含む)

図1 宿題プリント

* 教育学科教授

また、その記事をどの媒体によって入手したのかを知るため、インターネットによるもの（Yahoo ニュース、SNS などのデジタル情報）、紙媒体の各社の新聞紙によるもの、テレビ・ラジオ等の公共電波によるもの、の3種類に分類し、情報入手経路についてもリストアップして分類した。ただし、個々のニュースソース（たとえば、インターネットニュースはどのサイトから見たのか、新聞なら何新聞の記事か、テレビなら何放送の番組か等）については今回は調査していない。

4. 調査結果

以下に関心事についてまとめた「調査結果1」と情報入手経路についてまとめた「調査結果2」に分けて示す。

(1) 調査結果1

第1回 調査日(AB9/22, CD9/16, EF9/19) 回答者数 242名

調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 98件

- 1 (国際) 北朝鮮ミサイル関連 41名/242名
- 2 (政治) 衆議院解散 17名/242名
- 3 (事件) ポテトサラダでO157による食中毒 12名/242名
(教育) 給食完食指導で嘔吐 12名/242名
- 5 (政治) 希望の党に関すること 10名/242名

第2回 調査日(AB9/29, CD9/23, EF9/26) 回答者数 238名

調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 98件

- 1 (国際) ラスベガス 銃乱射事件 33名/238名
- 2 (教育) 生徒が教師に暴力 SNSで拡散 24名/238名
- 3 (事件) NHKの女性記者が過労死 14名/238名
- 4 (教育) 幼稚園送迎バス 園児を5時間放置 13名/238名
- 5 (教育) 給食完全指導の問題 8名/238名
(事件) 父親が妻子5人を焼死させる 8名/238名

第3回 調査日(AB10/6, CD9/30, EF10/3) 回答者数 248名

調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 132件

- 1 (事件) 東名高速で夫婦死亡 危険運転被害 14名/248名
- 2 (政治) 衆議院選挙について 11名/248名
- 3 (事件) 車いすの女性 蜂に刺されて死亡 10名/248名
- 4 (事件) 行方不明の4歳児発見 静岡 7名/248名
- 5 (文化) ノーベル平和賞 6名/248名
(文化) イシグロ氏がノーベル文学賞 6名/248名
(事件) 園児の声がうるさい 開園延期 6名/248名
(事件) 父親が妻子5人を焼死させる 6名/248名

第4回 調査日(AB10/13, CD10/7, EF10/10) 回答者数 238名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 133件

- 1 (自然) 台風接近 22名/238名
- 2 (事件) 東名高速 夫婦事故死 危険運転の被害 煽り運転 10名/238名
- 3 (教育) 塩酸がこぼれ児童13人が病院搬送 8名/238名
(教育) いじめ認知件数 32万件 8名/238名
- 5 (スポーツ) 清宮選手のドラフトについて 7名/238名

第5回 調査日(AB10/27, CD10/14, EF10/24) 回答者数 242名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 113件

- 1 (事件) 神奈川のアパートに9人の遺体 48名/242名
- 2 (教育) 担任と副担任の行き過ぎた叱責で生徒が自殺 教師のいじめ 27名/242名
- 3 (教育) 黒染め強要で不登校に 府を提訴 13名/242名
- 4 (教育) 強豪校のサッカー部員が飲酒や喫煙 元教員も同席 7名/242名
- 5 (芸能) ハロウィンで街がごみ箱に 6名/242名

第6回 調査日(AB11/3, CD10/17, EF10/31) 回答者数 243名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 127件

- 1 (事件) 神奈川のアパートに9人の遺体 19名/243名
- 2 (教育) 黒染め強要で不登校に 府を提訴 16名/243名
- 3 (教育) 小学校教諭 女子児童に体罰 14名/243名
- 4 (政治) トランプ大統領初来日 8名/243名
- 5 (芸能) 流行語大賞 30語がノミネート 7名/243名

第7回 調査日(AB11/10, CD10/28, EF11/7) 回答者数 238名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 116件

- 1 (スポーツ) 日馬富士が暴行事件 13名/238名
- 2 (事件) 神奈川のアパートに9人の遺体 11/238名
- 3 (教育) グランド陥没 10名/238名
- 4 (教育) 教諭が児童の頭を黒板にぶつける 8名/238名
- 5 (教育) 組体操で中3死亡 学校に損害賠償請求 7名/238名
(国際) イラン大地震の被害 7名/238名
(文化) LINEが機能追加 7名/238名

第8回 調査日(AB11/17, CD11/11, EF11/14) 回答者数 241名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 128件

- 1 (事件) 乳児コンクリ詰めで母親を逮捕 22名/241名
- 2 (事件) 小6女子 自宅前で死亡 11名/241名
- 3 (教育) 部活指導 教員の5割が疲労 8名/241名
(政治) 女性市議 子供を連れて議会に 8名/241名

- 5 (スポーツ) 日馬富士 暴行事件 7名/241名
(政治) 保育士の賃金引上げ 7名/241名

第9回 調査日(AB11/24, CD11/18, EF11/21) 回答者数 238名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 129件

- 1 (教育) 幼保 原則無償化 12名/238名
2 (政治) 天皇退位日決定 10名/238名
3 (教育) 12歳少年 殺人未遂で児相通告 8名/238名
(芸能) ディズニーランド拡張 8名/238名
5 (政治) 女性市議 子供を連れて議会に 7名/238名

第10回 調査日(AB12/1, CD11/25, EF11/28) 回答者数 260名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 117件

- 1 (政治) 新元号と退位について 23名/260名
2 (生活) インフルエンザの流行 9名/260名
3 (事件) トイレに新生児おきざり 8名/260名
4 (事件) 富岡八幡宮の官司殺害事件 7名/260名
5 (生活) ローソン無人レジ試験導入 6名/260名
(政治) 女性市議 子供を連れて議会に 6名/260名
(芸能) わさおの飼い主 死去 6名/260名
(生活) MRSA院内感染 6名/260名
(教育) 小2刺される 同級生の母親逮捕 6名/260名
(芸能) チケットキャンプ利用停止 6名/260名

第11回 調査日(AB12/8, CD12/2, EF12/5) 回答者数 245名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 122件

- 1 (事件) 女子大生の自転車事故 21名/245名
2 (事件) 富岡八幡宮の官司殺害事件 11名/245名
3 (教育) 教師が生徒になりすまし中傷ツイート 10名/245名
4 (教育) 認可保育無償化 9名/245名
5 (教育) 小2刺される 同級生の母親逮捕 7名/245名
(教育) 小学校学年主任が児童7人に体罰 7名/245名

第12回 調査日(AB12/15, CD12/9, EF12/12) 回答者数 236名
調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 99件

- 1 (芸能) 韓国アイドル自殺 14名/236名
(教育) 小学校に米軍ヘリの部品落下 14名/236名
(教育) ハンマー直撃で生徒死亡 14名/236名
4 (事件) 3歳児行方不明 11名/236名
5 (生活) パンダの赤ちゃん一般公開 10名/236名

(教育) 小2児童がバットで児童館職員を殴る 10名/236名

第13回 調査日(AB12/22, CD12/16, EF12/19) 回答者数 240名

調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 108件

- 1 (事件) 晴れ着トラブル 52名/240名
- 2 (事件) ハンマー直撃高校生死亡 13名/240名
- 3 (スポーツ) カヌー選手が薬物をライバルの飲み物に入れる 7名/240名
(教育) 大阪大学30人入試ミス 7名/240名
(事件) 高齢者運転 女児重症 7名/240名

第14回 調査日(AB1/12, CD12/23, EF1/9) 回答者数 244名

調査時において関心の高かった記事(上位5件) 事項総数 109件

- 1 (教育) センター試験受験生をパトカーで搬送 13名/244名
- 2 (生活) インフルエンザ流行拡大 12名/244名
(事件) 電車内で出産 12名/244名
- 4 (教育) センター試験にムーミン登場 10名/244名
- 5 (事件) 阪神大震災から23年 9名/244名

表1 ジャンル別比率

事件	政治	国際	教育	スポーツ	文化・科学	芸能	自然	生活	計
26.2%	8.3%	9.8%	16.4%	5.2%	6.9%	9.7%	0.9%	16.6%	100%

(2) 調査結果2

彼女たちが関心事を入手したニュースソースについて調査した。ただし、第8回から第14回までの7回分であり、調査総数は1704件であった。表2にニュースソース別の比率を示す。

表2 ニュースソース

ネットニュースから得たもの	新聞等印刷物から得たもの	テレビ・ラジオから得たもの
88.3%	6.5%	5.3%

5. 調査結果1から見た考察

「事件」について

全体の26.2%と一番取り上げられることの多かったジャンルである。ジャンル別で言えばどうしても事件や事故に関するニュースが目立つし、扱われている数も多いので、必然的に彼女たちもそういうものに接する機会は多く、それらを取り上げる者が多いことは予想通りである。毎日のように事故や犯罪などのニュースが報道され、マスコミの取り上げ方によっては集中して報道されるが、次から次へと新たな事件が起こるので長く関心事であり続けることは難しい。

今回の調査で特徴的な事として、調査対象が女子学生であったことが関係しているのか、女性に関する事件が多く取り上げられていたようである。第2回のNHK女性記者の過労死、第5・6・7回の

神奈川での女性殺害事件，第 11 回の女子大生自転車事故，第 13 回の晴れ着トラブル等の事件が目立つ。取り上げた理由として，同じ女性として気になったからと述べている者が多く，自分を中心として事件を取捨選択していることが伺える。

「政治」について

調査時においてちょうど衆議院選挙が行われており，「希望の党」の動向が注目を集めたが，それ以上に新元号のことに関心が寄せられていた。ただ，この 2 点以外の政治に関する事項は見られず，近年の選挙投票率の低下を裏付けるような数値であった。

「国際」について〈海外での事件，事故を含む〉

第 1 回調査時は北朝鮮のミサイル開発についての話題が注目されていたため，関心度は高かったが，次第に関心は薄れていき，ほかにはアメリカのトランプ大統領の言動に関心を示す程度であった。海外での出来事がまだ自分の生活と密接に結びついたものではないと感じていることが伺える。

「教育」について〈学校・園等で起こった事件，事故を含む〉

本来なら教育関連の事件も（事件）に含めるべきではあるが，ここでは分離し，教育の分野に含めて集計した。

対象が教育学科の学生だけに教育への関心度は高く，（事件）（生活）について 3 番目に高い数値となった。教育に携わろうとする者にとって，教育に関するあらゆることにアンテナを広げておくことは大変重要なことであるだけに，好ましい結果であったとも言えよう。

もちろん，ただ単に関心を持つだけではなく，そのことについて自分ならどうするのかということまで踏み込んで考えておく必要があるのはいうまでもない。例えば，第 1・2 回では給食指導の在り方について関心が寄せられていたが，自分ならどのように指導するかを考える必要がある。確かに嘔吐するまで食べさせるという指導は行き過ぎである。だが，だからといって偏食を放置しておくのも教育者としては許されない。それぞれの事情や背景については報道されていないので不明ではあるが，現場に出た時に直面するかもしれない課題なのである。

第 5・6 回には黒染め強要の問題が取り上げられた。自分も高校では同じような目に会ったとか疑問を感じる校則があったとかいう意見も多く寄せられた。この問題についてもどう指導すればよかったのか，自分なりの答えを持っておかねばならない。

残念なことではあるが報道された中には体罰やいじめ，わいせつ行為等反社会的な行動をした教員についての話題も少なくない。彼女たちにはそうした事件を反面教師として生かして欲しいと願うばかりである。

「スポーツ」について

スポーツの話題においても，暴行事件や不正行為などの報道に関心が集まっていたが，全体的には 5.2%と低い数値であった。一部の学生はサッカー J リーグのことについて熱く語る者もいた。

「科学」について〈IT 関係を含む〉

調査時はノーベル賞の受賞時であり，カズオ・イシグロ氏の受賞に注目が集まった。ノーベル賞の受賞が決まるとマスメディアがこぞって報道するので他の話題があまり報道されないことも関係しているのかもしれない。カズオ・イシグロ氏の受賞に触れた学生もあまり詳しくはわかっていないようであった。また，彼女たちの必需品ともいえるスマホのアプリである LINE について，送信取り消し機能が付いたということを取り上げた者がいた。LINE は便利なツールではあるが，いじめなどの温床になっているともいわれ，人間関係に神経を使う彼女たちにとってはありがたい機能として捉えていたようである。

「芸能」について

本学の学生たちもやはり芸能好きである。ディズニーランドの拡張の話題やアイドルの話題等が今一番気になっているニュースとして挙げてくることからわかる。

「自然」について〈自然災害を含む〉

今回調査した中で 0.9%と最も低い数値のジャンルである。大きなことがなかったから幸いと言えは幸いではあるが、度々「南海トラフ」の危険度や火山爆発の話題が報道されていたにも関わらず、あまり顧みられることがなかったジャンルである。

「生活」について〈旅行、病気を含む〉

調査時が後期であり、インフルエンザが各地で流行したにも関わらず、ワクチンが足りないという報道がなされ、関心度が高まったようである。

また実際インフルエンザによる学級閉鎖が発表されており、より関心が高くなっていったようである。このジャンルには事件性のない日常の情報を集約したので、パンダの赤ちゃん等のような項目もここに集計され、16.6%と高い数値になった。

この調査を行なった 2017 年に起こった出来事をまとめたものの一つとして、読売新聞社が調査した「2017 年日本の 10 大ニュース」という記事が YOMIURI ONLINE に掲載されている⁽¹⁾。世間一般の人が昨年どのような話題に関心を持ったのかを知る指標になると考えられるが、集計結果のトップ 10 のなかでは、「天皇退位に関するもの（2位）」「横綱が暴行問題で引退（3位）」「衆院選（5位）」「神奈川での切断 9 遺体（7位）」「上野動物園のパンダ誕生（8位）」と、5つの話題が学生の取り上げたニュースと重なっている。これを多いとみるか少ないとみるかは判断に迷うところであるが、教育学科の学生が教育に関するニュースを多く取り上げていることからすると、世間一般の関心事と本学教育学科の学生の関心事とは差異があると考えており、そこに教育に対する意識の高さが反映されているように思われるのである。

ただし、これが本学の学生全般に言えるかというところではないと考えられる。教育学科の学生が教育に高い関心を示すように、例えば看護学科や健康スポーツ学科の学生なら、病気や健康に関するニュースに関心の度合いが高くなると推測されるからである。

やはり数多くの情報の中から選択している様子が伺えるのである。

以上、関心事の高い項目についてその理由を考察した。ジャンルは私の個人的な判断で分類したものであるから多少は入れ替わりがあるかもしれない。しかし、学生たちの関心事の大まかな事は把握できるのではないかと考えている。

6. 調査結果 2 から見た考察

こうしたさまざまなニュースを学生たちがどのようにして入手したのか、そのニュースソースについても調査したところ、予想通りインターネットによるものが 88.3%と極めて多かった。スマートフォンなどのニュースで情報を得ているのである。LINE にもニュースのページがあり、わざわざニュースのアプリをダウンロードしなくても手軽にニュースが入手できるようになっているという。

新聞等印刷物からと回答した者は 6.5%しかなかった。若者の新聞離れが問題視されているが、ここでも如実にその現状が現れている。日本新聞協会による「新聞の発行部数と世帯数の推移」という調査データ⁽²⁾を見ると、2017 年は朝夕刊セットの発行部数は 9,700,510 部であり、一世帯当たり部数は 0.75 となっている。2000 年の発行部数が 18,187,498 部で一世帯当たり部数は 1.13 であったとされているから、新聞を購読している家庭が随分と減少していることから、家の新聞でニュースを

入手するという者も少なくなっていることと推測される。

地元の神戸新聞をはじめ、朝日新聞や日本経済新聞など大手新聞社も独自のオンラインニュースをインターネットに配信していることからデジタル情報が印刷媒体を凌駕していることは明白である。近年、通勤の電車内で新聞を折りたたんで読んでいる人をあまり見かけなくなったように思う。彼らは新聞を読まなくなったのではない。かさばる新聞を片手に収まるスマートフォンや携帯電話に変えて、新聞のデジタル版を見ているのである。

テレビ・ラジオに至っては 5.3%とさらに低くなっている。若者のテレビ離れは著しく、スマートフォンで好きな時に好きな番組を見ることが当たり前になってきているのである。一人一人がスマートフォンを手にする現代においては、テレビを囲んで一家団欒という風景は過去のものとなっているようだ。

7. おわりに

学生たちはそれぞれにさまざまなことに興味・関心を持って情報を入手している。決して何事にも興味・関心を示さないわけではない。ただ、その情報の入手経路がスマートフォンからが多く、紙媒体などではなくなっているということである。

若者が紙媒体の印刷物から遠ざかっていることは、近年よく指摘されている。文部科学省初等中等教育局は「我が国においては、近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景として、国民の「読書離れ」「活字離れ」が指摘されている。」という文章をHP上で公開している⁽³⁾。また、全国大学生生活協同組合連合会の調査報告によると、1日の読書時間は平均 23.6分と3年連続で減少しており、全く本を読まない者が 53.1%となったということであり、若者の読書離れを裏付けるデータを公開している⁽⁴⁾。

ただし、「読書離れ」はあっても「活字離れ」をしているかと言えば、それは一概には言えない。スマートフォンのオンラインニュースの記事を読んでいるからである。最近は漫画もネット配信のものを読んでいる者も多いことから、「読書離れ」と「活字離れ」は切り離して考える必要がある。

本学教育学科の学生においては、1年生の段階から教師という明確な目標を持ち、多くの情報の中から意図的に教育に関するニュースを選択している者が多いことがわかる。

また、そのニュースは主にスマートフォンなどから得ていることも確認できた。一日のスマートフォンの稼働時間は長く、私のゼミの学生も毎晩充電をしているという。

日々我々に提供されるニュースは膨大な数であり、話題となるニュースも報道するマスコミというフィルターを通して我々に届いている。情報を享受している我々は、そのことも考慮に入れたうえで、自分の意見をしっかりと持つことが求められている。

今後は学生がニュースをどのように受け入れ、自己の意見を確立させていくのかという意識の変容の過程についても調査したいと考えている。

注・引用文献

- (1) 「2017年日本の10大ニュース」YOMIURI ONLINE
(<https://www.yomiuri.co.jp/feature/top10news/20171222-OYT8T50045.html>)
- (2) 「新聞の発行部数と世帯数の推移」日本新聞協会 HP
(<https://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php>)
- (3) 「学校図書館」文部科学省初等中等教育局 HP
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/meeting/08092920/1282740.htm)
- (4) 「第53回大学生生活実態調査の概要報告」全国大学生生活協同組合連合会 2018